

●丹波自然運動公園

<p>前回検証結果</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立地を考慮し、より幅広い利用者の取り込みなど、利用率の向上のための取組を実施すること。 ・指定管理者の運営において、人員構成と人件費などの点から法人のガバナンスの健全性について精査すること。
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・京都縦貫自動車道京丹波パーキングエリア併設の道の駅「京丹波 味夢の里」から見える位置に公園名を表示する大きな看板を設置し、広範囲の人に丹波自然運動公園をPR。 ・京都府総合計画のエリア構想に併せ、南丹広域振興局、森の京都DMO、京丹波町と連携しながらスポーツ&ウェルネス構想に参画してトレーニングセンターの有効活用方法を検討し、新規の利用者獲得を推進。 ・平成31年度決算により人件費等の精査し、人件費+外部委託費の総支出額に占める割合は他公園と比較して低いことを確認済。 (丹波自然運動公園は直営での作業比率が高く、外部への委託が少ない状況)
<p>取組の結果</p>	<p>◇平成30年度に過去最高と同程度の利用者数を達成するなど、平成29年度からの3年間は約60万人で推移。</p>
<p>なお残る課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆公園施設全体の老朽化が進行し、今後維持修繕費や基幹施設の改築更新費は増加の見込み。 ◆大規模施設の老朽化及び陳腐化が進み、魅力ある空間利用が不十分で、利用者サービスが低下。
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □京都府中部地域の公園施設として、京都トレーニングセンターを有するなど、地域づくり・健康づくりの観点で有用である。 □京都縦貫道、味夢の里等を通じた利用やサイクルツーリズムの拠点としても利活用につながると考えられるため、誘客につながるイベント誘致等を各種施策と連携して実施されたい。 □地元をターゲットとした企画には限界があると考えられる中、行ったら楽しい公園としてもっと周知されるべきであり、京都市など広域から気軽に遊びに行けるような仕掛けを期待したい。 □よりコンセプトualに宣伝する効果をアップさせたいことから、魅力的に思えるソフトプログラムの開発が必要である。コンセプトにマッチする府内企業との協業など外部の知見が導入できる仕組みにすることが望まれる。
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎京都府中部地域の活性化に向け、近隣施設や各種施策と連携し、より広域的な利活用を図ること。 ◎誘客につながるソフトプログラムなど民間活力の導入を検討すること。 <p><今後の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○広域的な利活用につながるよう、民間活力を導入した新たな取組を強化する。